



いのちに本気でよりそう府政へ

減らされた保健所 元に戻して強化を

保健所のひっ迫が大問題になったのに、知事は「広域化のメリットが生かされた」と統廃合を合理化。危機的な事態をまともにつかんでいないことも明らかにな

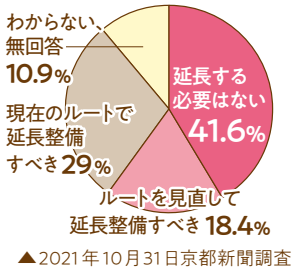
りました。あまりにも無責任です。いま、再び急速な感染拡大に直面しています。いのちを守る体制の立て直しこそ急務です。

京都府保健所	2003年以前 12カ所	現在 7カ所と 1支所
京都市内	2003年以前 11カ所	現在 1カ所

こんなときに大型開発ですか？

2兆1千億円 北陸新幹線延伸

「反対」6割 もう中止しかない！



8割がトンネルで、残土処理や地下水への影響など、住民の不安は増すばかり。地元負担がどれだけ膨れ上がるかもわかりません。「国家プロジェクトだから」と、国に追随するだけの知事では困ります。疑問や不安に向きあい、きっぱり中止を求めるべきです。

北山エリア開発 植物園や大学を金儲けの場にするな



府民の憩いの場、落ち着いた文教地域に、1万人規模アリーナなど賑わい施設をつくる開発計画。反対署名が10万筆を超え、元植物園長をはじめ日本中から批判が寄せられています。ようやく開かれた住民説明会では、「これから検討」の一点張り。中身を隠して進めるやり方も許せません。いったん白紙に戻すべきです。

議会報告



京都市上京区

日本共産党 府議4期

さこ祐仁

迫 ゆうじ

農商工労働常任委員会、文化・スポーツ振興対策特別委員会

さこ祐仁

すべての事業者に、規模や影響の実態に見合った支援を

議員団の「街頭なんでも相談会」で、小売店を経営する女性のお話を聞きました。「コロナで客足が減り、売り上げが激減。今後の商いと老後が不安」とのこと。「飲み屋さんのような支援がほしい」とも言っておられました。コロナの影響は、あらゆる分野に及んでいます。業種を特定した一律の支援ではなく、必要などところに届く施策への改善が必要と痛感しました。



シール投票とアンケートで皆さんの声を聞きました。(12月20日、河原町三条)



「食費を削っていたので無償は助かる」などの声が聞かれました。(12月5日)

コロナ禍で、生活がますますたいへん 食材提供に喜びの声

民主青年同盟が主催し、同志社大学の近くで行われた「食料プロジェクト」。「バイト先の時短で収入が減った」という学生、「コロナで仕事なくなった」という子連れのお母さんなど、たくさん来られました。私も相談員として参加。「残業手当が少ないことを労基局に訴えたいが、会社に知られたら追い出されるのでは」など、深刻な相談も寄せられました。

